



令和3年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）
 「認知症の当事者と家族を一体的に支援する支援プログラムのあり方に関する調査研究事業」（継続）

認知症の人と家族の日本版一体的支援プログラムの検証

目的

オランダを中心に展開されている「ミーティングセンター・サポートプログラム」を参考に、わが国における認知症の人と家族を一体的に支援する「一体的支援プログラム」を開発しました。全国10ヶ所のモデル事業を通して効果を明らかにしたうえで、検討委員会で具体的な普及促進方策の検討を行い、実施に向けた手引書を作成しました。これらの成果は、オンラインにて事業説明会を開催し周知しました。

概要

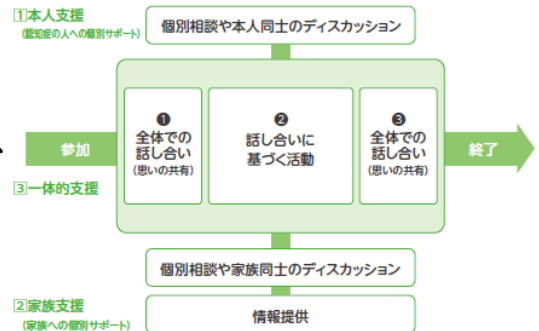
主な事業内容

- ①全国10地域(仙台市、平塚市、宇治市、駒ヶ根市、大牟田市、いわき市、射水市、品川区、奈良市、飯塚市)にてモデル事業を実施し効果を検証
- ②検討委員会を2回、モデル事業委員会を6回開催
- ③モデル事業と検討委員会の結果から一体的支援プログラム実施の手引書およびホームページを作成
- ④認知症施策関係者向けの全国セミナーを開催し周知した

主な結果・成果

①一体的支援プログラムの構造

全国10ヶ所のモデル事業ならびに、過去2年間の検証から、一体的支援プログラムの構造を右記のように定めた。認知症の人と家族を一つの単位として捉え、関係性の調整を図りました。それによって介護負担の軽減やBPSDの発生予防などに資することが示されました。



②手引書の作成と普及

右記、手引書を作成し全国への普及と実施促進を行いました。手引書は、立ち上げ、運営の手順などを含み詳細なQ&Aを記載(A4カラー版全41頁)。また、この手引書を資料として令和4年2月に開催したオンライン全国セミナーには830名の申込(定員は450人)がありました。

③一体的支援プログラムの効果

昨年度実施したモデル事業と、今年度新たに実施したモデル事業を加えた10ヶ所で効果測定を行い次の結果が得られました。

【家族への効果】①介護肯定感の向上：下位尺度「役割充足感」「自己成長感」の向上。②介護負担感の軽減：NPI-Q負担感得点の軽減。

【認知症の人への効果】①QOLの向上：下位尺度「所属感」「自尊感情」「総得点」の向上。②BPSD出現への影響(NPI-Q)「興奮」「多幸」「脱抑制」「易刺激性」「異常行動」が介入後の方が出現数が低下。これらより、陽性症状とみられる過活動性BPSDを軽減させる傾向がみられました。



成果物

研究事業報告書：関係団体に送付するとともに、当センターウェブサイトに掲載しました。

※本事業の詳細は、認知症介護研究・研修センター(仙台・東京・大府)のウェブサイト「認知症介護情報ネットワーク(DCnet)」に掲載しています。

認知症介護情報ネットワーク
 Dementia Care Information Network
<https://www.dcnet.jp/>